

令和6年度使用小学校用教科用図書の採択結果等について

採択地区名	江田島市
-------	------

種 目	発行者	採 択 理 由
国語	東書	<p>○課題解決的な学習を実施するための工夫として、読むことを扱った第3学年の物語文において、単元はじめに、課題と学習の進め方を示し、単元末で課題について、学習の進め方の具体（ノート例、考えをつたえる例と学習で使う言葉の説明等）と、振り返る事柄を表記し、児童の主体的な学びを引き出す工夫をしている。</p> <p>○単元や資料等の配列については、「読むこと」の単元と「書くこと」の単元を関連付けた配列を第2学年以上において、各学年3か所設けている。「読むこと」の単元と「書くこと」の単元間に学習を関連付ける「情報」の小単元を配置し、情報活用能力を高めることができる。</p> <p>○本文記述との適切な関連付けがなされた図表等の活用については、第5学年の説明文「和の文化を受けつぐ一和菓子やさぐり」において、文章と図表（絵や写真、表やグラフ）を関連付けて自分の考えを書く活動や、学習を活用してポスターを作る活動を設定している。また、デジタルノートが表示される二次元コードが掲載されており、思考ツールなどを使いながら情報を整理することもできる。</p>
書写	東書	<p>○整った文字を書くためのポイントを見つけさせる学び方を示している。</p> <p>○課題解決的な学習を実施するための工夫として、それぞれの学習過程において「書写のかぎ」に関わる視点を示して、話し合ったり生かしたり広げたりする構成にしている。</p> <p>○単元の配列・分量については、「書くときの動き」の分野で、1文字の点画のつながりを意識した後に、文字と文字もつながりがあることを学習できるようになっている。さらに、その文字のつながりを生かして書く速さを場面によって変えていくことを学ぶ展開となっており、スモールステップで学習が進められるため、基礎・基本の定着につながる。</p>
社会	東書	<p>○主体的に学習に取り組むための学習展開として、第6学年では、「政治・国際編」の最初の単元の中程に、見開きで「社会科の学習の進め方」のページを設け、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習の進め方を示している。</p> <p>○単元や資料等の配列、分量については、第6学年では、政治・国際編、歴史編の2分冊となっており、各分野での違いと関連を意識しやすくしている。</p> <p>○調べたことや考えたことを適切に表現するための工夫として、第3学年では、火事からくらしを守る人々の働きを関係図にまとめ、つくった関係図をもとに考えたことを書くよう示してあり、理解しやすい。</p>
地図	帝国	<p>○地図帳に関する説明の仕方の工夫については、「地図の世界へようこそ」「地図ってなんだろう」「地図のやくそく（1）（2）（3）」で方位、地図記号、土地利用について説明し、その後、「地図帳の使い方（1）（2）」で記号と色（凡例）、さくいん、縮尺、きよりについて説明するとともに、具体的な活用の仕方を説明している。〔使用ページ数は14ページ〕</p> <p>○主体的な学習に取り組む構成上の工夫については、「日本の自然災害と防災（2）」では、災害に備える国や地域の取組や、防災マップづくりの手順を示し、体験的な学習を例示している。</p> <p>○言語活動の充実に向けて、日本の自然のようす、自然災害と防災、産業のようす、日本と世界の結び付き、日本の歴史、持続可能な開発目標、日本の世界遺産、都道府県の名前と位置について資料図等で示している。</p>

種 目	発 行 者	採 択 理 由
算数	学図	<p>○単元の目標を達成するための工夫として、第4学年「数と計算」の仮商修正の仕方の扱いは、「商の見当をつけて計算し、かりの商を1回小さくする。答えのたしかめをする。」としてあり、かりの商が大きすぎたときは、かりの商を小さくしていくことについて、手順をおって示している。</p> <p>○中学校の学習内容と関連する内容について、合計31.5ページ取り扱っている。〔別冊「中学校へのかけ橋」〕</p> <p>○数学的な考えを用いて自分の考えを説明する工夫として、第4学年「図形の面積」のL字型の図形の面積の求め方について、形を想起しやすく、操作もしやすい方眼紙に図形を掲載している。</p>
理科	啓林館	<p>○単元のまとめ方の扱いについては、単元末の「振り返ろう まとめノート」で、学習内容をまとめ、「新しく学習した言葉」を示している。また、学習した内容の定着を図るための「たしかめよう」「活用しよう」「もう一度 考えよう」を設けている。</p> <p>○社会の変化に伴う課題への対応として、プログラミングの体験に関する内容について、第6学年「発電と電気の利用」では、シミュレーションしたり、実際に体験したりするプログラミング体験例が紹介されている。身近な実生活における例を示し、プログラミングの構造を「条件と動作」で考えさせており、児童に理解させやすい。</p> <p>○内容の表現・表記の工夫としては、二次元コードが付いていて、ストリートビューのような視点移動で地層などの写真が見られるようになっている。</p>
生活	東書	<p>○興味・関心を高めるための工夫として、下巻「うごく うごく わたしのおもちゃ」の導入では、写真によって3つの場面を取り上げており、活動の参考になる。</p> <p>○幼児期の教育との接続について、「どきどき わくわく 1ねんせい」は、全13ページで構成され、「つながる ひろがる」で、幼児期の教育との円滑な接続に関する内容を示している。また、各ページ下段に、保護者向けの説明を掲載している。</p> <p>○本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用について、上巻「はなをさかせよう」では、植物の成長や変化への気付きを自覚できるよう、段々と紙面が広がる構成になっている。</p>
音楽	教出	<p>○歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫として、第4学年の歌唱教材「ゆかいに歩けば」では、スタッカートの歌い方について、「かたを楽にして、おなかに手を当てながら歌ってみよう」や「『ゆかいに歩けば』の前半の部分をピ、ポ、マなどの言葉で、歌ってみよう。」と歌い方を示している。また、児童の写真で、スタッカートで歌う時の目や口の開き方、腹部の様子を示しており、歌うときに、表情をまねることができる。</p> <p>○楽器の基礎・基本の定着を図るための工夫として、リコーダー学習の導入では、構えたときの姿勢について、構えた時の斜め正面、右横、左横からの児童の写真に掲載している。また、サミングについて、第4学年で写真と言葉で、親指を下へ滑らせる方法と親指を少し曲げる方法を示し、高レから高ミの時は、親指を少し曲げる方が開けやすいことを記述している。</p> <p>○題材や資料等の配列については、第2学年から部分二部合唱を導入しているため、早い段階で旋律の重なりに触れることができる。</p>

種 目	発行者	採 択 理 由
図画工作	日文	<p>○振り返りについては、「学びに向かう力、人間性等」の涵養へとつなげるために、活動を通して、どのような気付きや学びがあったのか、学習を振り返るための視点を示している。</p> <p>○身近な作品・我が国や諸外国の親しみのある美術作品等や生活の中の造形の取扱いについては、各学年に「教科書美術館」を設定し、作家作品の詳細まで鑑賞できるように大きく掲載している。また、第3～6学年は「広がる図工」のページで、作者の表現に込めた思いや美術館とのつながり等を伝えている。さらに、各学年の巻末に「アート・カードを楽しもう」を設けており、付属のアート・カードを使い鑑賞のポイントを学んだり、諸外国の美術作品に触れたりすることができるような工夫をしている。</p> <p>○発想や構想、鑑賞の場面における言語活動の示し方、具体例については、共同して制作する題材や、発想や構想、鑑賞の場面で児童が関わり合う活動を取り扱っており、作品を鑑賞する視点を記述したり、児童の活動の様子が分かる写真や対話を示したりしている。</p>
家庭	東書	<p>○基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るための工夫については、「いつも確かめよう」を巻頭・実習ページ・巻末で35項目取り上げている。また、実習のページには自己評価欄として「できたかな？」の項目を14か所掲載し、児童が自らの学習状況を評価・改善することができる。</p> <p>○伝統的な文化に関しては、「日本の伝統マーク」を示し、写真を掲載して、関連する内容を取り扱っている。また、巻末にも「地域の料理」を掲載している。</p> <p>○巻末に、実習に役立つ写真が実寸大に拡大してあり、実際に手を乗せて、真似をしながら包丁の使い方や玉結びの仕方、修理の仕方等、習得することができる。</p>
保健	東書	<p>○学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習のための構成上の工夫については、学習のイメージとゴール（目標）を図で示しているため、児童が見通しをもてる。また、振り返りを書くことによって考えさせ、考えを整理分析しながら学習を進めることができる。</p> <p>○健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けた学習活動の工夫については、各項目末に、学習内容に関連した情報を「資料」として掲載している。児童の命や健康を守るための情報を豊富に掲載することで、今日的な健康情報を充実させるとともに、学習内容をさらに広げたり深めたりすることができる。</p>
英語	三省堂	<p>○基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための工夫として、「want to」の表現に繰り返し触れるよう、第5学年では1単元、第6学年では3単元設定している。第5学年のLesson7では、国名の英語の言い方を知り、伝え合う活動を行った後に書く活動を行う流れになっている。主語はIのみで、スモールステップで学ぶため、分かりやすい。</p> <p>○巻末資料、付録等の工夫について、ローマ字表（ヘボン式）と言葉のカード及び別冊「CROWN Jr. My Dictionary（2学年連続使用）」を掲載し、「教室で使う英語」「会話を続ける工夫」や「英語のできること【CAN-DO】」が設けられている。</p> <p>○言語活動の充実については、3つのUnitで構成されており、全てのUnitでHOP（Unitの見通し）、STEP（表現に出合う・慣れ親しむ・伝え合う）、JUMP（表現する）が設定されている。STEPがLessonの数によって複数設定されているため、学習の選択肢を広げることができる。</p>
道徳	日文	<p>○発問の示し方については、冒頭の教材名の下に、例えば「『手品師』というお話を通して、『誠実』ということについて、みんなで考えましょう」と示し、本時で考えたい道徳的価値を示している。</p> <p>○各学年、「見つけた！ここにも道徳」を示している。また、別冊「道徳ノート」に、教科書の巻末の「見つけた！ここにも道徳」を見て、これまで学んだ道徳での学習とのつながりを考えるページを設けている。</p> <p>○考えを伝え合う活動の工夫として、巻頭「道徳の学び方」の「考える・深める」の中に、話合いの具体的なポイント等について二次元コードや写真とともに示している。また、別冊「道徳ノート」に友達の見解や話合いの内容を記述する欄を設けており、言語活動の充実を図ることができる。</p>